大正八年二月一日發行　大正八年一月二十八日印刷納本　（每月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

Y.W.C.A.

基督教女子青年會

貳月號

第十六卷第二號

女子青年界目次

大正八年二月號

IMPORTERS HT **EXPORTERS**

Hakodate Trading Company, Ltd.

Trappist Creamery and
Condensed Milk Factory

Successors to

HAKODATE AMERICAN-JAPANESE TRADING Co.

Capital Stock Yen 500,000.00

IMPORTS: Farm machinery, hardware, dairy machinery, gasoline engines, motors, tractors, steel, iron, tin plate, rubber boots, etc., etc.

EXPORTS: Minerals, Canned goods, dried fish, lumber, condensed milk, butter, cheese, etc., etc.

Location: Trappist Condensed Milk Factories:
T[illegible]betsu Factory, Kamiiso
Kikonai „ Kamieso
Hongo „ Kameda

Please send Trappist Order to Main Office, 25, Suehiro-cho, Hakodate.

Telephone 2072
Cable Address [illegible]
Use ABC Code, 5th Edition

Nobuzo Kawai
General Manager

FRAMES, PICTURES, POST CARDS.

OKAMOTO, CHIKYU-DO & CO,

OGAWAMACHI ST, TOKYO, TEL. HONKYOKU- No. 1100.

SOL AGENTS IN JAPAN

Cosmos Pictures Co. & National Art Co.

New York, U. S. A.

コスモス繪畫會社◎米國◎ナショナルアート會社

日本總代理店

額緣繪畫繪葉書輸出入

岡本地球堂商店

神田區小川町通

振替東京一九七〇番　電話本局千百番

前付二

FURS
D. KOMEYA
PROP. C. YAMAOKA,
(TANNER)

Furs, Coats, Stoles, Muffs. Brocade Linings, Slippers, Feathers, and Water-color pictures.

No. 14, Benten-dori, Itchome, Yokohama.
Tel. 3370.

PICTURE DEPT.
No. 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama.

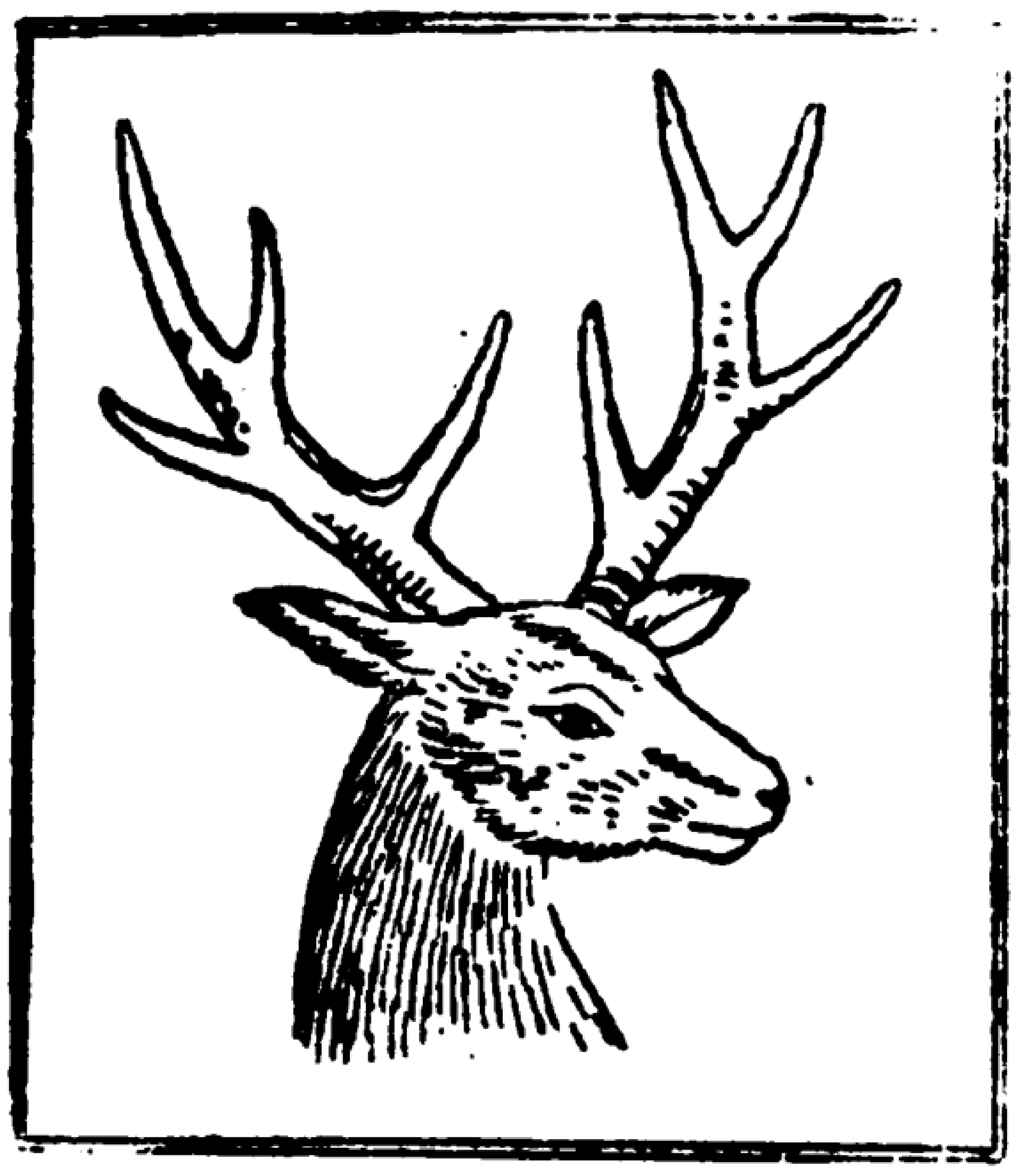
BRANCH:
Tel. Shimbashi 2179.
No. 1, Minamikinroku-cho, Kyobashi,
Near Shimbashi, Tokyo.

MAIN STORE-NIKKO
Summer Branch
Karuizawa

貴婦人令孃用

毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〳〵 取揃へてありますから 多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目十四番地
コメヤ號 山岡商店
電話長三三七〇番

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店
電話新橋二一七九

夏期出張所 **信州輕井澤**

MARUICHIYA

Manufacturer of and Dealer in
Silk goods, Paper wares and Stationeries,

Wholesale and Retail

Fancy goods department: No. 8, Benten-dori.
Stationery Department: No. 9, Benten-dori.
Tel. 4751.

美術雜貨製造販賣
丸一屋
横濱辨天通一ノ八、九番地
電話四七五一

EVERYTHING PHOTOGRAPHY

EXPERT KODAK FINISHER
S. MIKADO PHOTO CO
29, Unemecho Kyobashiku
TOKYO JAPAN.
Tel No. 2272. Shimbashi

寫眞器械材料販賣
出寫併寫眞一般應需

美門商會

東京市京橋區采女町
廿九番地歌舞伎座前
電話新橋二二七二番
振替東京一九四九四番

前付四

前附八

女子青年界 第十六巻 二月號 大正八年二月一日發行

會說

凍傷と凍死

河井道子

北海道の二月寒氣絶頂の或日、一處女が用事があつて朝早く外に出掛けました。前夜大吹雪があつた爲に此處彼處に積雪山をなし、或はだまし穴の如きあなが地面にあつて、歩行が非常に困難でした、彼女は足をよく包み、草履をはいた上に藁靴を穿つて出掛けましたが、不注意な女中がその藁靴を凍らして居た爲に重く、一足雪の中に這入るとそれを拔き出す事が非常な困難であり歩行がはかどりません。而し時間を制限して行く可き處であつた爲、彼女は大膽にも雪中に藁靴をぬぎすて、草履で歩き出しました。足は元より冷え間もなく感覺がない樣になりました。漸く用事を終へ歸らうとすると、屋内にしばらく居つたので足の雪が解け初め誠に可憐な姿でした。暫く其處に止まつて足の始末をつけ樣と思ふたが、朝まだ夜明けの事で番人が中々止まる事を許しません、止むなく彼女は雪の中を又踏み越え歩き出しましたが、最早一歩も歩けないやうな感じがしました、其中に夜も明けたから一軒の雜貨店が戶を開けて居つたので、新たに藁靴を求めそれを履きましたが、何にしろ濡れた足袋や草履が氷り付いて居

るので、よくはけません。彼女は何を思ふてか路傍の井戸に行き水をくみ、跣足になり只足をゴシゴシと洗ひ初めました。そして擦すつて擦すつて水で擦すり雪で擦すり、少しく感じのあるやうになつた時急いで素足のまゝ、痛い藁靴をはきセッ／＼と家に歸りました。幸ひ暴風雨の後の天氣でありました故に、斯る事も出來たのでありませう。家に歸ると足はポッ／＼として宛然ストーブの側に長らく暖めた様な心地がしたと申しますのみならず、全身の血液が盛んに循環して朝の食事も快よくし、終日元氣よく働き續けました。家人は彼女を馬鹿勇氣だと叱りもし戒めもしましたが、案じたやうに風も引かずその冬は過ごしたと云ふ事であります。元より彼女の爲した事は確かに危險であります、雪の中を草履で歩き濡れた足で歩くなど、どうして凍傷をまぬかれたか不思議であります。しかし彼女が無鐵砲にも井戸で汚れた足を洗つたり、雪で擦つたり、素足で藁靴を履いてドシ／＼歩いたと云ふ事が自然と學理にかなつて彼女を助けたのであります。彼女の足が氷つた時もし暖いストーブがあつて其處で暖めたりしたなら必ず大變な事が起つて、終には凍傷の爲切斷しなければならぬ立場になつたかも知れませぬ。

先達西伯利に行きました時、注意をされた一つの事があります、それは耳が凍つたなら、決して直ぐ湯に入れたり、火の傍に來てはならぬ、雪でセッセと擦つてから室内に入れとの事でありました。誰でも寒むければ直ぐ暖い處に來たく、手が冷めたければ直ぐお湯にでも入れ度のでありますが、之は非常な毒で恐る可き現象を來たす事が度々あります。

或一人の人が凍死しやうとした時に助かつた經驗を述べて申しますに。彼は最初は寒く痛く無感覺になりそれが暫らく續くと睡氣を催すので、急に心地よく寢てしまふやうになつた處が、誰かゞ自分を呼び起すので五月蠅くてたまらず、どうか寢かして置いてくれゝばよいがと非常に願つたが、益々ゆすられ擦られ、叩かれ等するので、何故こんなに心地の

よいのに起すのかしらと思つて居つた其の瞬間に目を開き蘇生したのであるとの事でした。此人にしてもし好むが儘に眠つたならば、彼は死んでしまつたのであります。而し嫌ながら腹立つほどまで呼び起される其聲に醒め、それに由つて彼は救はれたのであります。斯の如く凍死をする人は大概ほつて置かれるか或は自分で生きやうとする苦痛と努力を拂はぬ者にあるのであります。

人間の靈的にも確かにこの眞理を認めます、この點に於いて死は易く生は難いと云ふてよいので、自分の欲する儘をやつて居ると死が來ます、願はざる所、むづかしき事、面倒なる業、困難苦痛多き事業等は皆人を生かします。俗に好きは上手の初めと云ふ事がありますが、或場合は自分の好きな學課、不得手の仕事を熱心と努力で上手になり練達したと云ふ事が度々あります、學校にしましても天才と云はるゝ生徒が何の苦痛も感ぜず、骨折る事もしないが故に、やがて愚な墮落的な者となる事があります。其の反對に極平凡な寧ろ出來の惡い生徒が孜々として勉勵した結果秀才となる實例もあります。

或婦人が斯う云はれました「人間と云ふ者は大概上手な事をする場合が少なくて、下手な事をしなければならぬ多くの場合に遇ふのが普通であります、それ故苦しい、むづかしい、つらいと感じますが、もしそれを通り越してしまふと、下手だと思ふた事が追々自分の得意になつてき勝ちです。其中には自分の上手だと思ふて居つた事でも用ふる場合がなかつたり、又助長させる時がなかつたりすると、段々それが不得手になつてしまふ事があります」確かにこの言葉は私共の平日に當嵌まるではありませんか、何も求めて苦痛を選べ、不得手の事をしろと云ふのではありませんが、若し我々の境遇が苦痛多き場所であり、不得意の責任を負はせられたりする場合には苦しいから、嫌だから、氣に入らないから、失敗するからと云ふ樣な口實に之を捨つるやうな事があれば、確かに彼の凍死する人が擦つたり、搖ら

れたりして睡い眼を開け、倦い體を動ごかすのは嫌だと云ふて死んでしまふに類似て居ります。又手など凍つた時はすぐ湯や火で暖めずして最初は雪などで寒い場所に於て摩擦をしなければ、危險だと云ふことも精神上の凍傷を防ぐ途筋を敎へて居ります。丁度困難があれば直ぐそれをとる、嫌な事があれば人にして貰ふ、努力する事は他日に延ばす。人からは絶えず同情と好意とに預り度い等と云ふ事は、殆んど凍つた手をストーブやお湯で暖めやうとすると同樣に害があります。吾々が不注意の爲失敗を來たし、不忍耐故不成功であつたり、努力足らざる時に失望が來るやうな時、却つて、眞直な忠告や正しい譴責や、以前にまさる努力、これ迄以上の困難に出遇ふ事が、即ち雪などで擦すると同じやうに必要なのであります而し斯く申したと云へ、絶えず雪で摩擦して居つただけでは決して血液の循環を整へる事は出來ず、徐々に暖き室にて暖めるのが必要であると同じに、吾々も困難のみしなければならぬと云ふ事はありませぬ、つらい悲しいと云ふ事丈では生きられませぬ、喜びや同情を交換してこそ生存が出來ます、只愛に述ぶる事は生を得んとするには苦痛を經る樣に、吾々が成功を來すのはそれに伴ふ困難を經なければ眞の喜びに入られぬと云ふ譯であります實業界を見ればよくそれが解りませう。濡れ手で泡と云ふやうに一攫千金の利益を占める人もないではありますまいが、それは大抵は不正當の利益であります、正しい方法で巨萬の富を積んだ人は皆苦痛や困難を經て來たのであります。或は又大學者と云はるゝ人、大發見家或は大發明家と云はるゝ大家皆同じ事であります。まして吾々心を鍛へやう、人格を築かうとするには、高い價を拂はずには得らるゝものではありませぬ。生命を完うせんとする者は其十字架を取りて我に從へとエス君の申されし事は何日も應用されます。

　若き姉妹方は今性質人格を築きつゝある時代で、この時に前述のやうな努力奮闘と云ふ習慣をおつけ

下さい。善い事ならば自分の欲せざる事もやつて見る、自分の得意でない學課でも、或は自分の好きでない擔任敎師の學課でも、それを務めると云ふやうな習慣が他日必ず人格に大關係をするものであることを覺えて下さい、よい習慣をつけると云ふ事は恰も火災保險料を拂つて居るやうなものでせう。別に目立つてこれが吾々の利益にもなつて居りますまいが、一朝事ある時は丁度自分の家が燒けてしまつた時に再び家が建と同じやうに、私共の心に嵐がよせて來る時に思はざる祝福をきたす礎であります。

この習慣には元より意志を强固くしなければなりませぬ、米國の名高い心理學者ジエームス博士の言葉に「己が意志を强固にしてよき習慣を付ける爲には毎日自分の責任外の事をやつて見ると云ふ事である、即ち自分の欲しない事を態と一つ二つして見ると云ふのである、斯くするならば、非常な必要な事が起つた場合、或は困つたやうな時に周章狼狽する事がないと」。己が意志を鍛へるは決斷力を養ふ基であります。一事を見ても如何に處置してよいかゞ、明瞭に解り之を實行する力が出來ます。斯く云ふて見ると、吾々の平素の心得或は習慣が實におそろしいもので、年を經るに從ひそれより脱する事がむづかしいものであります。誰にでも癖と云ふものがあつて、換言すれば或習慣がついてゐます。脱いである下駄を見れば減り方や鼻緒の形で誰の下駄かと解る時もあるし、着物の皺でその持主が解つたり、何につけても其人の習慣や性質があらはれて來ます。一度皺の寄つた着物は伸しても又同じ場所に皺がより易いといふやうに、私共の一度ついた心の皺や減り具合を治さうといふことは非常にむづかしいもので、治つても又其處に陷り易いものですから、どうしても年若い時に良習慣をつけ以て將來主婦たり或は社會の働人となり或は交際界の指導者となり、又己が欲せざる方針に向くやうな場合で即ち精神上の凍傷が起つたりする時に、それに打勝ち凍死をせずして死を更へ生に入るやう、その準備をして毎日自重せらるゝ事を祈ります。

講演

強請る祈

金森通倫

祈ほど理窟に於て解らぬものはない。而も全智全能の神様何もかも御承知の神様が祈れと仰られる。神は私共の祈、求めもせざるうちに、水も木も凡てのものをお與へ下さる神様が、なんで求めよさらば與へられんと仰せらるゝか。私には理窟はわからぬが祈の事實は分かつて居る。

祈れば確かに與へらるゝと云ふ事、これは知識でなく事實で知つて居る。私は其事實を握つて居る、其處で私は確かに安心して神樣にお願する。尚この祈に就て不思議に感じた事は、一度祈るのでなくして、くどく／＼祈り、祈の數の多くなる程お答へ下さる。もし全智全能であるならば一度祈つても又祈らなくともよさそうであるがさうではない。又祈と云つても涙と共に血を吐くやうな切な祈を聽き給ふので即ち強請るやうな祈を聽き給ふのである。エリコの盲者が「ダビデの子我を救ひ給へ」と云ふて人が止めたのも聽かずに強請つて求めた。子供が母親に菓子など強請る時、初めはその菓子を與へぬが、子供が強請り／＼すると終には出してやる。聖書から見ても實際から見ても事實にあはんやうであるが、事實がさうである。私は創世紀卅二章のダビデの記事を喜んで讀むが、あの時の樣子から見てもヤコブが神樣に強請つて居る、全能の神ならば放して行く事も出來るに、免してくれと迄仰せられた、そして終に「汝は神に勝てり」と宣ひ給ふて仇は變じて愛となつた。ヤコブは確かにぐづり強請りついたが爲に斯る大難をのがれた。或る意味に於いて私共は神に勝つ事が出來る、何だかをかしい樣であるが、神が

その子に負けて下さるのも神の御性質かと思ふ。神は愛なれば其子に負け給ふ事はある可きだと思ふ。母親が食べてはならぬと初めは云はれても、終に母親は負けてしまふ。傍から見て居ると歯がゆいやうであるが成程母親の心中を考へると母は愛で、愛せば愛する者の爲に負て了ふ。吾々が强請りぐづるとお與へになる、これが祈の秘訣である。蟲けら如き小さき者が祈つても神の御腕を動かす事が出來る祈は世界を動かす力である。祈の理窟などを知るよりこの事實を味ふことは喜ばしい事である、而して神の負け給ふた事實を知る人は幸福である。

凡てに得たりと信ぜば必ず得べし。如何なる祈も聞かれるとは限らない、或る場合には極瞭然しない時もある斯る折は御心の儘になし給へと祈る可きであるが、而し是非ともと云ふ確信の祈は必ず聽き給ふ。信仰の祈の出る源を尋ねると私共の心の求め方にある。ヤコブの祈は「御心にかなはゞ」と云ふ樣な祈ではなかつた。妻子が路頭に迷ふ樣な場合御心の儘にとは祈られなかつた。今度の祈は是非聽いて頂き度と云ふ行きつまつた祈であつた。これが信仰の祈である。自分の心に不確な場合もあるが、どんな事があつてもこの祈は聽いて頂き度と思ふ時は疑ふ事はない。ジョン、イノックスが祈つたやうに、どうしてもスコットランドを救ひ給へ然らずば死を與へ給へと祈つた。神は彼の祈の儘にお與へになつた。

もし人病床にあるならば悲しみを慰めとして祈つて頂き度い。英國のリバイバルは一病婦人の祈が然らしめた。或婦人が病床にあつてムーデー翁の說教を新聞で見て、どうか英國に彼を呼んで自分の教會で說教をさせ度と二ケ年間祈り續けた。處が或日彼は英國に來た。この事を聽いた彼女は斷食して祈つた。ムーデーが初めて教會に行つたその朝は說教しても何の響もなかつた。其晩にも殆ど氷の山につき當るやうであつたが說教半にして會衆は燃えて來た今晩より基督を信ずる者は立と云ひし時、會衆は總立になつた。このリバイバルはムーデー氏の力もあつたらうが歸する處は病床にあつて秘かに祈つて居つた婦人の二年間の祈に對する答であつた。斯く神は、秘に祈る信仰の祈には、必ず答へ給ふのである。

萬國學生祈禱日趣意書

大戰茲に終局を告げて、平和の天日全世界に輝き愈々新天地を迎へて聖旨の實現を見んとするの時に當り、我萬國學生同盟が來る二月二十三日の日曜日を期し、主に在る人類同胞と共に特に祈るの光榮を擔ふに至れるは、吾人の心底より感謝して已まざるところ也。

謂ふに今次の戰爭に於て、學生なる一階級程甚深の影響を蒙りたるものはなかるべし。其交戰國たると中立國たるとを問はず、あらゆる學生の間に思想的運動の躍如たるものあらんとするは、疑ひを容れざるところ也。今や學生等は古き形式や理想に對して慊焉たらず、眞理其物に對するの憧憬心著しく盛んになり、又民本主義と國際心とに對する欲求的精神が一層熾烈を加ふるに至り、男子と女子と相並んで人道の爲めに世界の舞臺に活動するの狀態に進み、傳道事業は特に非基督教的學生間に及んで確實なる收穫を見るに至り、又拉典亞米利加及びバルカン諸邦より來れる留學生の敎化は、以前に幾倍するの効果を示すに至れり。

我學生同盟の事業の範圍の著しく擴大せられたるが爲め、其指導者等は敎界にも俗界にも社會的國家的運動に參加して牛耳を執り、多くの他の事業と提携して奉仕の機會を增大するに至れり。

我同盟の目的は從來基督敎によりて國際的融和を圖るにあるが、戰爭によりて一層其便益を加ふるに至り。單に指導者に限らず、大多數の學生をして他國の青年男女と交渉するの機會を得たるが爲めに、他人種に對する徹底的理解を爲す事の緊要なるを知覺するに至り、國際的精神の涵養の上に利益を受けたる事鮮少にあらず。又一方には社會問題社會事業

に對する一般學生の興味の増大せる事も、特筆すべき事項なりとす。

吾人の前に展開せられたる新しき地平線、新しき機會と要求は、吾人に感謝の念を喚起すると共に相共に神に祈るの心を促して已まざるもの也。冀くは「神に於ては能はざる事なし」の信仰を以て、此萬國祈禱日を特に守りて榮を神に歸するに至らんことを。

萬國基督教學生同盟

委員長　カール、フリース

總幹事　ジョン、アール、モット

女子部幹事　ミス、ルース、ラウス

感謝の事由

一、戰亂中と雖も、何れの學生青年會も、我萬國學生運動より脫退するを免れたる爲。

二、多數の學生青年會が一方には充實されたると共に、他方には著しく擴張せらるゝに至りたる爲。

三、戰爭の結果或種の事業が却て著しく發達するに至りたる爲。例へば女學生、苦學生、留學生及非基督教學生間の傳道が盛んに行はれたる爲。

四、一般學生等が、社會的國家的國際的問題の解決をば、耶蘇の教訓中に發見するの緊要なるを確認するに至れる爲。

祈禱の項目

一、格段に困難なる事情の下に在る事を感ずる青年會指導者等の爲。

二、新たに重任を負ふに至れる女子學生指導者の上に、智慧と力と愛とが加へらるゝに至らん爲。

三、外國よりの留學生及避難者、其他の間に行はるゝ凡ての運動が將來益々神の指導を蒙るに至らん爲。

四、個人としても團體としても、耶蘇基督を人生の主と崇め、此信仰に基ゐせる傳道を更らに一層擴張するやう計畫を立てん爲。

五、改造の新時機に際し、能く新たなる境遇に適應し、又吾等の前に開かれたる幾多の新しき機會を捕捉し得るやう、上よりの智慧を與へられんが爲。

戰後の婦人の取る可き道

井深花子談

近頃日本の爲に非常に殘念に且その前途を憂へて居るのであります、そう云ふと自分がもつと豪い人間でなくてはなりませぬが、どうしても「神の國と其正しきを求める」のでなければならぬと云ふ事を痛切に感じて居ります。戰爭も濟み今後列國と提携する上に於て確固たる信念がなくては實に將來は憂ふ可きものであると存じます。維新の際に日本を改造した士を見るに眞に自分を忘れ國の爲に盡した愛國者であつた樣に思ひます。彼等の行爲に於て又其結果に於ては或は誤まつたかも知れませんが、兎に角誠心を以て國の爲に盡しました。今の日本が斯うしてあるのも維新の愛國者あつた爲だと思へば感謝せずには居られません。

休戰の曉には世界は改造され可きであります。日本も改造される筈であります。其改造者たる可き人は矢張り維新に於ける愛國の精神をもてる眞に自己を忘れたる人こそ望ましいのであります。然るに現今の日本の狀態を見ると實に歎はしいものであると思ひます。今回世界の大舞臺に乘り出す人を見ても、宛で物見遊山にでも出掛ける樣な騷ぎではありますまいか、ウヰルソン氏も夫人を伴はれますが、ウヰルソン氏のは夫人は夫人として同胞婦人の立派な代表者として恥かしからぬ人格の夫人を公然伴はれるのでありますが、我國より送らる可き人はいかがはしき婦人を同伴し、又總てが非常な贅澤な旅行であるとき丶ました。人の話によると豆腐を拵へる道具迄持參されて彼の地に於て純日本料理を以て外國の使節を招き日本の粹を驚かさんと云ふ考だとか聞きまして、私は慨歎せずには居られません、他の國では正義の爲に人道の爲に巨萬の財と人命を犧

性にして漸く勝ち得た其曉に斯く贅澤を盡した日本を紹介して彼等外國人は日本人に本當に敬服するでせうか左なきだに日本を火事場泥棒視して居る國もあるのに此樣な淺はかな行爲を以て堂々たる紳士の間に却て恥をさらす樣な事はありますまいか、如何に金滿家であるとはいへ、其費用を節して善き事の爲に遣つたらどうでせう、まして政府の金に於てをやであります。

日本が世界に有名になつたのも、醜業婦に於て又外國にある男子が紳士の體面を汚す如き振舞をする事に於てであります。然るに我國を代表される人がいかゞはしき女を伴はれ、又彼女も贅澤なる生活に醉ひ名望にあこがれて外國迄もその恥をさらすに於ては、婦人として私は烏滸がましい次第でありますが憤慨せずには居られません、どうしても日本婦人がもつと神の國とその正しきを求むる樣になつて欲しいのであります。モット氏は「女の教育の程度女の進歩の程度迄より社會は進歩せぬ」と云はれましたが道理と思ひます。過般御下賜金のあつた際も當局者は女子教育の爲には少しも考へられませんでした、男子のみ教育されて女子は男に養はれて行けばよいものと思ふて居られるのでせうか。もつと婦人が自重して高き理想をもたねばなりませぬ、學校に居る間、青年會に屬して居る間のみ基督を信じ神を求めても、學校を出で、青年會を去ると世の風潮のまに〳〵流される人があります、結婚するにしても只に男子の位置又贅澤なる生活に甘んずる樣ではとても男子を改善する事は出來ません、男子をして改善するは實に婦人の力にあると信じます。もし人格の高い人がなければ一生淋しい孤獨の生活をしても厭はず神の國の爲に働くと云ふ覺悟が欲しいものです、唯男子の玩弄物となつて居る樣では日本の國は亡びると思ひます。

婦人選擧權を米國あたりで爭ひましたが、今日では勞せずして解決がつく迄に婦人は認められて來ました、然るに日本に今假りに婦人選擧權を與へられ

てもそれをどうするでせうか、今の日本の婦人では



中央西洋婦人は露國のプレスコヴイスキー刀自（本部幹事住宅にて）

實に歎かはしいと思ひます。男子も日本の女は覺醒しなければならぬなど〻云ひながら、斯る意見を有する所謂世間で紳士など〻云はる〻人が、事實に於ては自分の主義或は意見を例令其が正しくあつても發表する様な婦人は嫌ひ、唯に從順なる婦人を要求する時代でありますから、男子の叫はあてにならぬものと思ひます、どうしても婦人自身が自分を尊重して正しきを求めるのでなければ、迚も社會が改善される事はありますまい。或る基督教信者で今は實業界にある人の云ふに、何と云つても獨逸人は豪い氣が大きくて策略が上手であると感服されたさうです、この人は策略がうまく詰り金儲の上手なのに感服したのです、これを聞いた人は非常に歎じて私に申しましたが、斯く金の爲に生くるを以て目的とする人が多いやうであります、「日本婦人がどうか物質上の幸福を夢みず、人格高き人でなければ、結婚してやらぬ位の見識が欲しいものです、此點に於て婦人方がもつと〳〵覺醒して頂き度のであります。」

（文責在記者）

折にふれて

三谷民子

□責任を重ずる事

「自分の言語動作につき責任を重ずる事は、自分の缺點は啻に自分一人に關するのみならず、國民性の缺點となることでありますから私共は社會の一人として充分なる責任を盡す可きであります」各自が責任を感ぜずに生活する事は其人にとつては容易でありませうが、虚僞なき生活をしやうとする人々に對しては非常な迷惑となるのであります。私は曾て杉村楚人冠氏の著書半球周遊を讀んだ事があります、其中に彼が英京倫敦に滯在中或新聞社より何か記載して呉れとの依賴を受け、題目は忘れましたが某記事を書かれた時に、その讃美につき英人よりも在英日本人よりも手紙を寄せられたが、自分の姓名を明かに示したのは外國人で、同じ國の日本人には姓名が特筆してなかつたと云ふことであります。この記事を讀んだ時丁度自分もこの缺點を感じて居つたので、之に共鳴しました。畢竟自分の言語に對して不贊成を稱へても、稱へ主の現はるゝを恐れた卑怯の振舞が多く、兎角何方を向いても善い子になり度と云ふ無責任な島國根性が斯くさせたのでありませう。責任を感ずる事が深かければ上下貴賤を通じて、各自の旗色を明かにする事が出來ます。旗色が明かに定まつて居る時に初めて交際上快樂を感ずるのであります。今日の儘では黑だと思つた人が實は鼠であつたり、赤と思はせて紫であつたりするのは、單純な智慧の足りない者にとつては非常に住みにくい世界にするのであります。聖書に「然り〱否々と云へ是より過ぐるは惡に出づるなり」この意味は然りを然りとし、否を否とせよとの事で、結局鮮明な

る旗色を掲げよとの意味であると思ひます。說教を聞いても人に接しても、この觀念のある講演者の口を出づる言葉は飾り氣なく流暢な響がなくとも痛切に人を感動させる力をもつのであります。私の友人が或說教者を評して、あの人があんな立派な敎會を持つて居るのは、牧師が訥辯であるからである、あの訥辯に凡ての秘訣があるのだと云ひましたが、大變意味ある面白い言葉と思つて今も記憶して居ります。

まづ一つの事が學校に起つたとします、其時にこの事柄を誰が云つて居るかと聞きますと十人の子供が十人ながら、皆が云つて居りますと答へます、實に無責任なる事を代表したものと思はれます、我勝ちに云つた者も形勢不穩と見ると、皆がと云ふ總括した名辭の下に自分の責任を隱すのであります。事の眞僞を正してからでなければ云はない位の人は必ず責任を重んずるのであります。

□一定の見識の缺けて居る事

この原因は學問素養の足りぬ事と、獨立的行動をする事を婦人が缺いて居るからだと思ひます。其日其日で主義主張が變つて行くのは、餘り心細い心持がします、極子供で譬へて見ても甲と乙と二つの物を出して、何方らでもよい方をおとりなさいと云ふ時に甲とか乙とか明瞭と答をなす者はめつたにない十中の八九迄は何方でもと云ふのである、それなら何方を持つても滿足するならよいが、何方を取つても必ず何等かの不平を抱く、是等は善惡を識別する力が足りないと云ふよりも寧ろ親代々數へられた僞つた遠慮からであると思ひます。詰り前に述べた不鮮明を云ひ直せば虛僞の分子のはびこりであらうと思ひます。これが及ぼして國民性になつた今日、外國から信用を受ける事の出來ないのも道理だと思ひます。

或る日西洋の婦人と食事を共にして居つた時、下

女が洋服屋の來た事を報じました。其時友人の西洋婦人は彼の時間通りに來たのを驚愕して（今迄時間通りに來た例がなかつたので）大袈裟に氣絶する眞似をしましたので皆で大聲を擧げて笑ひましたが、洋服屋と同國人である私は實に苦笑でした。

□善事と思ひても勇なき事

一　私共が善事と思ふても、それをする勇氣に缺けて居るのに深く感じました、「今年私共の學校の標語を選ぶことを頼まれましたので、羊の年でもあり戰爭の終つた平和の年でもあり、方々平和に關する事を思ふたのでありますが、つく〴〵考へて見れば立派な働きを終へて報酬を得、先一安心と平和の歌を唱ふて居る時ではないと思ひました、尙眞の平和を來す前に、爲さねばならぬ樣な氣がした、其處で終にフガラテヤ書六章の九節「善を行ふに臆する勿れ蓋倦む事なくば我儕時に至りて穫取べければ也」と云ふ句を選びました。改譯聖書の方には「善を爲すに倦む事なかれ」と書いてある。臆するも倦むも二つながら勝たねばならぬ惡癖だと思ひます、其處で眞の善と知つたならば、友達の誰が同意せずとも批評を受け樣とも勇氣を振るつて行す許りでなく初めから三日坊主の汚名を蒙らぬ樣に倦まざるやうにとの意味からこの句を選んだので、四五人友達の寄合ひし時は、「あゝするとほんたうによいが、どうもと云ふて、けれども、どうもの連鎖で空論を續けることの度々あるのはどうも飽足らぬ心地がする、どうかとの二語を、である、故にと直し度いものであると思ひます。

會　告

□新年の賀狀を會及び幹事にあて贈られし諸姉に御禮申上げます。一々御挨拶申上げた積りでは御座いますが、數多き事とて發送洩れがございましたかと存じますから玆にめ改て申上げます。

廣岡淺子夫人の逝去

河井道子

十二月の暮近く用事があるとて、神田の會館に訪づれ給ひし廣岡淺子夫人が一月經たぬうちに神の國に歸らるゝとは夢の樣であります。丁度御永眠の當夜即ち一月十四日特別委員會が會館で開かれ、席上一委員が廣岡夫人が御病氣であると云ひ出され、一同驚き明日は御見舞申上んなど云ひ居りしに、十五日に至り既に永眠され訃音に接したのである。實に宗教界、教育界又實業界に於ての大切なる人物をなくし、其缺陷を補ふ事は誰しも出來ない事と思ふて居ます。特に女子青年會が夫人に負ふ所非常に多く、多年中央委員とし又大正六年の秋大阪女子青年會の創立の際は、委員長として多大の援助を與へられ、其他幹事個人を陰陽共に助けられたのであります。讀者中夏季修養會に列席された方は夫人の熱烈なる婦人の信仰的訓話は覺えて居られませう。昨年迄は毎年かゝさず修養會に列席して、若き者を奬勵されたのであります。一昨年の如きは御殿場の避暑地より態々仙臺迄炎暑を厭はず修養會に列席して、夫人の同情を表はし下されし事も諸姉の記憶に鮮やかでありませう。只お話を聽いたと云ふに止まらず夫人の信仰によつて己が信仰を復活せられ、或は更に眞の救の道に入られし方は青年會の者のみならず日本全國どの位あるか分りません、世人は夫人の實業界或は教育界或は一般社會に於ける大貢獻を元より賞讃して書きたてませう、私共只夫人の信仰生活と個人間に於ける友情とを述べ度いと思ひます。

故淺子夫人が六十歲にして基督教に入り新生命を得られ、それより靈的發展の著しい事は確かに現今に於ける奇蹟であります。而も是迄基督教は大嫌ひであつたとは御自身の告白であります、夫人の一生

涯程屈折の生涯がありませうか。天下の富豪と云はる丶三井家より出で若くして大阪の實業家廣岡氏に嫁し。同家の悲運を挽回して、以前に増したる大家となし加島銀行を創立し、鑛山事業を開始し、終に實業界に於ての先達者となられた事も人の知る處であります。其他日本女子大學の創立者の一人として日本の婦人の地位を高め、生産的にも婦人の獨立を圖られし事は、吾等一同感謝して止まざる所であります。然るに彼は一度基督敎を信仰するに至り、過去の神なくしての成功を恥ぢるが如く、己を常にサマリヤの婦人に比しマグダラのマリヤに較べて罪あるこの僕なる淺子を神は救ひ給ふたと云ふ事を到る處の講壇より絶叫されたのであります。是はポーロの「然ど我さきに我益となりし所の事はキリストに依りて損ありと思へり。然のみならず我わが主キリストイエスを識るを以て最も益される事とするが故に凡てのものを損となす我彼の爲にすべての是等のものを損せしかど之を糞土の如く意へり。兄弟よ我みづから之を取りと意はず唯この一事を務む即ち後にあるものを忘れ前にあるものを望み神キリストイエスに由りて上へ召て賜る所の褒美を得んと標準に向ひて進むなり。腓立比書第三章八、九、十三、十四」以上の告白は確に夫人の告白と信じられます。（拔）

□故廣岡淺子夫人告別式

一月廿一日午後四時夫人の告別式は神田美土代町靑年會館に於て執行されたり。故人を惜しみて此處に集れる内外男女は階上階下に立錐の地なき迄にて二千人にも近かりしかと思はる。白色の淸き花輪にうづもれし夫人の棺を前に牧野虎次氏の司會の下に夫人の愛唱されし讃美歌八十三番「夜はふけわたりぬ、ゲッセマネの園に」を以て開會、山室軍平氏の聖書朗讀及心血溢るる祈禱、四部合唱、履歴朗讀、追悼辭、祈禱、獨唱、弔辭等終つて會衆一同の頌歌小崎牧師の祝禱を以て式は終れり、淸き花の香りと共に夫人の高潔なる御德は館内に漲ぎり、深き印象

を與られし吾々の心は寒き外氣にふれ殊更緊張し夫人の素志をつぎて立つ可の思を禁ずる能はざりき。御遺骸は御親族の方々に護られ同夜大阪に送られたり。本葬儀は大阪土佐堀青年會館にて擧行せらる。

本會より淺子夫人に捧げし吊詞

今や世界大戰爭の暗夜過ぎ去り將に萬國平和の黎明を迎へんとする希望の時機に際して、我日本基督敎女子青年會は

廣岡淺子令夫人を失ふ我々の悲哀悼惜又決して理由なきに非ず。

抑々故夫人は信仰生活に入らるゝ初年より本會に滿腔の同情を寄せられ爾來其中央委員として內外の發展に盡瘁倦み給ふ處を知らず殊に本會の夏期修養會の如きに至りては每年炎暑を侵して必ず出席せられ青年子女に信仰を奬勵し處世の途を指導するを恒例とし給へり。

大正六年に於て大阪市女子青年會の創立を見たるは是全く故淺子夫人の力に依れり舊臘中旬寒風身を刺す一日殊更に本部を訪づれ大阪支部の將來につき協議ありたる如き此の「死に至るまでの忠信」は本會に遺し給ひし永への生ける賜と謂ふべし我々は今や如斯恩人を失ひ孤兒の感なき能はずと雖も惟ふに世上一般に見るが如き悲惜をなすべき機に非ず只此際斯る偉大なる人格を婦人となして地上に降し七十餘年の勝利ある生涯を與へ後進者を激勵し給ひたる全能の神に謹みて感謝し奉ると共に故夫人に倣ひて愈々世界の爲國家と個人との爲正しき美しき奉仕を遂げ信徒婦人の任を全うせんが爲益々勉勵するは故夫人に對しての報恩の一端なるを信ず、君の靈や今は天に在りて愈々榮光の中に働き給ふなるべし我等は地上にありて御旨のある處に働かん斯くて我は永久に親交を續け得ん事を藴みて神に祈るを以て弔辭に代ふ

大正八年一月廿一日

日本基督敎女子青年會代表

幹事　河井道子

ギヨン夫人傳

——ウフハム氏に據る——

森田松榮

一六七一年の夏、「小弟の親友の一人として御遇ひ下さる樣」とのギヨン夫人の異母弟モーゼ聖職の紹介狀を有つた青年聖職が、ギヨン夫人を訪づれた。ギヨン夫人は此時新らしい交際をするのは嫌だつたけれ共、弟の願をきいてやりたい心から彼を引見したが、此人こそ夫人生涯の歷史に深き關係を有するに至つた、フランシス・ドラコンベであつた。

あらゆる人が神の愛を繼續せんことを切望してをり、既に身自ら神の器となつて、人々の回心に盡してゐた夫人は、コンベ師に逢ふと、將來有爲の人物なのを知つた。優れた敎育を受けてゐる上、聰明、活潑、寛容なる同師をギヨン氏にも大に喜ばれて、兩人は心おかぬ談話に耽つた。ラ、コンベ師が再び同家を訪れた時、夫人は自ら內なる聲と稱してゐる所のものを、同師に說明した。これは彼に甚大な感化を與へ、彼の信仰生活の轉期となつた。即時其所で彼は神の裕によつて全然聖主のものとならんことを志ざした。もとより、彼は既に少時より宗敎的經驗に富み、宣敎をしてゐたのであるが、此時彼は已にまだ缺くる所のものを、夫人のうちに見出したのであつた。

彼女の信仰生活は、めざましい發達をし續けていつた、巴里に往つた時なども、奢侈な都には、外的な心を牽くもの、人の群は昔の通りに今もあつた。然し此らに對する彼女の心は全く異つてゐた。此らは彼女を誘惑とならざりしのみならず「群がれる人々はたゞ更に深き宗敎上の冥想へと我を牽く用をし市街の聲は唯わが衷なる祈禱を增すのみなりき」。

此頃の彼女は「實際に「わが思ふところならず汝の聖旨を成させ給へ」と云ひ得たりき」といふまでに進んだ。彼女は「意思が全く碎かれ、その利己的なる作用に於てのみならず、その利己的なる傾向に於て、いとゞ絶滅せられ、其本性が變化するに至るまで」さまぐ\の試煉、鍛錬を經たのであつた。「自己の爲に富貴、名譽、快樂、便宜、自由、何物かを願はざる人あるべしや。此らのものを有せるが故に此らのものに心囚へられずと思へる人も、一朝此らを全然剝奪さるべき場合にあはゞ、直ちに此らに對する自己の執着心をさとるなるべし。故に特別なる折に神意と一致すべき樣、意見が其作用に於て正しく護らるゝことあらんとも、彼はなほ意思の生命より來る劇しき爭鬪を感ずるなるべし。然して彼の意識は、彼が刻々たゞ神の恩惠によりてのみ、勝利を得ることを證するなるべし」。

一六七二年の夏、彼女は友人が長をしてゐる或修道に來て、信仰の爲數日逗留してゐたが、ふと或朝の四時、自分の父が死んだといふ豫覺に眼が醒めて心を痛めてゐると、其午後夫から早飛脚で、父の病氣を知らせて來た。父は當時ギヨン家に來てゐた。彼女は、とるものも取あへず歸つたけれ共、間に合はなかつた。

「父の德は廣く知られをるが故に語る要なし……その忍耐と信仰とはいみじかりき」と彼女がいへるに見ても、又母と姉とに別かれてから、一層深い愛をさゝげて孝養してゐたことからも、父の死がいかに彼女を悲しませたかを察することが出來る。父にわかれた涙が乾かない間に、彼女の獨娘は天に召されていつた。まだやつと滿三才を過ぎた時であつたこの兒は、容貌も心もたとへやうなく美しく、また宗敎心が強く、屢獨りで隅つこへ引込んで祈禱してゐた。母が習慣で目を瞑つて默想してゐると、その少女は「母樣眠つていらつしやるの」といふかと思ふと「あらさうじやないのね、イエス樣にお祈をしていらつしやるのね」といつて、可愛らしく跪い

て自分もお祈をし始めたこともあつた。稚兒ながら餘り宗教心が強いので、祖母樣からお叱言が出た程であつた。稚い女兒は、孝順、無邪氣、謙遜の德のほかに、いろ〳〵の愛らしいわざを母から認められてゐた、父は溺るゝ斗りに此兒を愛した。「小さい天使のやうな」といつた母は「地上にて殆と唯一のわが慰藉と思つてゐた」。祖母の惡い感化を受けた兒が母を輕蔑し嫌ひ悲しませたのに引換へ、此少女は母を愛し慕つていつもその心の喜となつてゐた。

一六七三年第四子(男兒)を與へられた。彼女の心が慰めと歡びとに滿つる程なく、親友なる女修道院長ジユランジユに死別の悲みを味つた。ジユランジユは臨終の時、或人がギヨン夫人の名をいつたところが、忽ち昏睡から醒めて

「私は神に於て、神の爲に、彼女をいつも愛してをりました」

といふを最後に、魂は此世を去つた。臨終に間に合はなかつたギヨン夫人の嘆は、見るも慘ましい程であつた。ジユランジユはどんなにギヨン夫人の力であつたらう。同情と、祈禱と、忠言とを、いつも自分にくれた友、行くてが暗くわびしく見えた時屢〳〵訪づれては助言を貰つた友、時の移るのも忘れて信仰の話を語り暮した友、無二の親友は、今や天へ歸つて了つた。彼女は寂寥と悲嘆の最中にありつゝ考へた、ジユランジユに對する自分の愛と信とがあんまり多いので、彼女を奪ふ方が、私の爲になるといふことを、神が私の心に敎へ給ふたのであらうと。

友の死に於てもギヨン夫人は、神を頌め神に感謝することが出來た。地の絆に離れた丈それだけ彼女は神へ結ばれた。然し友の死に由つて心に深く受けた悲みは長く〳〵消えなかつた。

□洲崎埋立地でロー孃飛行會

米國女流飛行家ルース、ロー孃は愈よ一月二十二日夕方二十三日朝天洋丸にて橫濱に到着する筈、民間飛行倶樂部主催者となり、孃の爲めに二月一日洲崎埋立地に於いて飛行會を行ふ事に決せり、而して多少たりとも利益を見る時は民間飛行倶樂部活動の基金となすと。

休戰布告の日

在倫敦　志立屋奈

今朝五時に休戰條約が署名されました。丁度十一時學校の門を入りますと、大砲の音が聞えました。講義半の教室より生徒も教師もかけ下りて來て門の前の廣場に參り、譯もなく表を眺めてしばらく立つて居りましたが、漸く大講堂に參り皆が國歌を歌ひました。校長が今日は之で休みませうと云はれましたので皆倫敦に出掛けました。私も友達三人と一番先に來たバスに乘つて、トラファルガル、スクエアに參りました。未だ十一時十五分と過ぎませんでした時でしたのに、もう人で歩けない程で御座いました。兎に角バッキングハム、パレスへと參りました。宮城の前にヴイクトリア女皇の記念碑がございます其前から宮城の門にかけての人といつたら眞實にたとへやうも御座いませんでした。私共は記念碑の下に立つて、一時間半も陛下が宮城のバルコニーにお出になるのを待つて居りました。記念碑の上にまで鈴なりに人が登つて旗をふるやら歌をうたふやら大變な騷ぎで御座いました。陛下のおみえになるのが後れましたので、記念碑の一番頂きに居たニュージーランドの兵隊が音頭をとつて、幾萬の群衆が「ジョーヂ陛下の出御を望む」と叫びました光景は實に盛で御座いました。陛下が皇后陛下、內親王、コンノート殿下などゝ御一緒にバルコニーにお見えになりますと、樂隊が國歌を始め群衆もそれに和しました。それから種々の歌、ホームスヰトホーム、ティパレアリー聯合各國歌が順々に奏樂され群衆が歌ひました。あの讃美歌「いざやともよこゑうちあげてくしきみわざほめうたはまし」が奏されました時には一同脫帽致しました有樣は、本當に嚴かで御座いました。皇后陛下が小さな旗をお振りになつて居る

のをお見受け致しました。その後で陛下が何か群衆におつしやいましたが私共は遠くて伺へませんでした。バキングハム、パレスから総理大臣の官宅、議事堂、ウエストミンスター、アベーの方を歩いて見ました。國會では休戰條約が讀まれた後議員一同セント、マーガレット教會に參り、感謝の祈禱が獻げられましたそうで御座いますが、それは見られませんでした。ウエストミンスターから又トラフアルガル街に歸つて參りました。刻々に人の數は增すばかりで、バスも自動車も荷馬車も人が溢れる程乘つて旗を振りながら參ります。誰を見てもニコ〳〵して居るので、つい私もニコ〳〵しなければならない樣な有樣で御座いました。ストランドで二人のニユージーランドの兵隊に遇ひましたら兩方の手を振りながら「日本人も今日は笑つて居る」と申しました。人波騒ぐ夕方歸つて參りましたら、暗してあつた市の燈火も今夜は明るく日歿後は必ず下さなければなりませんでした窓の黑い窓掛も今夜はとつて居りますが、戰爭が濟んだと云ふ事も何だかまだ半夢の樣でございます。學校では夕飯後感謝の禮拜がございました。明日は方々の教會でも禮拜があるさうでございます。部屋に歸つて參りまして、習慣的にブラインドを下してから電氣をつけ、それからもうその必要はないのだと思ひ起してまたブラインドを明けました。長い〳〵間學校に來てから一度も見られなかつた燈火の光が、向の丘にも輝いて居ります。狂喜した人波の中に自分も這入つて居つたのでございますけれど、其間何とも云へない哀愁を覺えました必ず他の人も同じ事でございましたらう。此方の人は獨逸がベルギーを引とることより、聯合軍がライン河畔を占める事より、何より捕虜の歸つて來る事を喜んで居ります、四年と三ケ月暗い日が續いて今日今からもう何處にも戰がないと云ふ事はどうして夢と思はずに居られませう。毎晩毎晩休みます前に窓を開きます度に、靜かな〳〵夜を眺めてはフランスベルギーに戰ふ人を思ひましたのに、今夜はもう

何處にも大砲の音がして居ないのでございます。今も友達が來てこう云ふて居りました「今夜はもう戰がないと云ふ事を事實と思はれますか」。戰爭が終つて新しい時代が始まります。斯して書いて居りますとあのジュリアン、ウォードのバットルヒムの一節が何處かで聞える樣で御座います。

「われ神の進軍の榮光を見たり
彼は怒に充てる葡萄畠を蹈みやぶり、
彼は畏ろしき電光の刄を中天に放つ
彼の眞理は進みつゝあり。

海を越え百合の花さく美はしの地に基督生れませり
彼は吾等を懷にいだき聖化せんとて
彼は死して吾等を聖別し自由を與ふ
吾等の神は進みつゝあり。

浦鹽より

國井綾子

（前略）初めの一晝夜は私共可なり船酔になりましたが次の日には大元氣で食堂にも參りましたし運動も致しました船は豫定より大變後れた爲三十日の夜は浦市で一泊致し三十一日の朝早く入港致しました朝早く船渠で待つても／＼赤十字社のお方はお見えになりません其中に私の兄が見えましたので私は直ぐ上陸し、兄と馬車で赤十字社の事務所に行き、ミス フォンダに會ひました。電報が屆かぬ爲に御存じなかつたと云ふお話でした、私はそれから姉の家に參り、ミス、ガンターはミス、フォンダの所に行かれました。

四時に大荷物引揚の爲石戸様とミス、フォンダと私共と船に參りましたが稅關で中々むづかしい事を云ふて通してくれません。其内に日は暮れます私が

居ても役にも立ちませんので石戸様の自動車で家に送くられて參りましたが、ミス、フオンダとミス、ガンターはお氣の毒でございました。

元日は何年振りとかで近年にはない大吹雪で、外出する事も何も出來ません大變なものでございました。耳を凍らしたり鼻を凍らした方が近所にございました、今日でも外では男子の鬚が皆凍つて居ります、馬の體もすつかり凍つて居ります。二日には私共の荷物を家に運ばうと思ひましたが、雪の爲電車も自動車も出ません、靑年會の自働車も赤十字社の自動車も動かないのでどうする事も出來ません。石戸様の自働車も全部出て居りますので、ミス、ガンターと三人で住居を見に參ゐりました。町はづれの隨分遠い所にございます。家主は露西亞人の傳道師をして居る方で息子と二人でございます。石炭を半噸だけと水を一日に石油罐で二つだけ買ふ事とを賴んで參りました。露西亞の石炭は安い代りに燃えにくいさうでございますが一噸百二十ルーブル（我二十五圓位）で水は石油罐一つが一ケ月に七ルーブル（一圓二三十錢）です、姉の家では客があつたりお正月でも一日に四つで間に合はせて居りますから私共は二つで足りると思ひます、今日（三日）ミス、フオンダの事務所に參りましたら、ミス、ガンターが昨日から御風邪で今日はとても起きられないから一日引籠ると云ふお話です、明土曜日大荷物を住居に運ばせ私共も掃除にとりかゝる積りですが、上陸してから四日目になりましても、右の様な有樣で何も出來ないのでございます。小供の贈物は是非七日の降誕祭にはやり度と思ひます。石戸様の家は姉の家の近くで御座います、御多忙の所種々お世話下さいました森夫人にもお目にかゝりました。ミス、ガンターは露婦人を女中に一ケ月六十ルーブルで雇ふ様になつたと申して居られました。ミス、ガンターが早く全快されて活動が出來ればよいと思ひます。住居に入り次第御報申上ます。

元ちやん

寺田初代

今日も休憩の時が來ました。繁雜な精一杯な然し淋しい一日を終へて母さんはこれから日常の樣に安らかな眠りに就かうとして居ます。ね坊（本統にもう一度爾うして呼んであの可愛らしい返事がきけるのだつたらどんなに嬉しい事だらう。日常ならかうして母さんが靜に遠くにいらす父さんや坊を誰よりも可愛がつて下さる祖父ちやまや祖母ちやまそれから小さい伯父さんや伯母さん達そして可愛い〵坊やの上に豐かな御惠のある樣にと心に繰り返して居た時分には坊は母さんのお床の側の暖か相なお蒲團の中で氣持よくすや〱と眠つて居るのだのにネー）

何て月日は容赦なく立つて行つて了ふのだらう坊とお別れして此方もう五十日にもならうとして居ます。土の懷深く靜かに安置して來た玉の樣に美しい（本統に坊の亡骸は土に返すには餘りに勿體ない我子ながら母さんは跪いて拜したいとさへ思つた程美しく尊かつた）形骸も、やかては風雨に朽ち果てようとする頃になつて了つたのですねーあの樣な美しいものが朽つてしまふし是非もない定ですけれどー堪えがたい悲しみです。

でもね坊。母さんの胸に生きて居る坊は日數がたてばたつだけ鮮かにかへつて肉體であつた時よりもつと近く母さんの側を離れないで居ますよ母さんはせめてもの喜びだと思ひますよ。母さんの在る限り決して母さんから坊の消えることもなければ。坊も確かり母さんから離れないで居るにちがいないと信じますよ。母さんがこうした考へになる迄には母さんの魂はどんなに祈つて考へて考へて悶えて泣いたか知れないのです。坊もよく知つて居る樣につね〲母さんは基督樣の敎へをきいて居ましたらう。靈の不滅を信じて疑はない筈でせう。こうした場合に泰然としてその杯を飲み干すことの出來ない

者が何處に基督樣の僕と自稱する權利があるでせう。ねー坊。しかし母さんは恥かしいけれどこの人生の大問題が何の躊躇もなく母さんの目前に展開された瞬間には神樣を知らぬ普通の人と同じ樣に將に狼狽してその立場を失はふとして居たのです。ともあれ何といふ慘憺たる光景だつたでせう。一家人の魂がことごとく擧つて不安と焦燥と熱誠と緊張の最中に投げ出されてあらゆる醫學の權威も知識も一個の生命に何等の意味も有たなくなつて只死の黑影が勝利顏に堂々と肉薄して來たあの最後の數日、偉大なる自然の力に對立しようとする人間の力の微弱無能を殘る隅なく暴露したかの數日。思ひ出してもぞつとしてしまひます……苦悶呻吟する幼子を前に於て何をもすることの出來ぬ人間の力――科學の力をどんなにじれつたく思つたかしれません。醫學の力の限りを見てとつた母さんは再び人間の持つ事の出來る他の武器をとつて蹣跚めく足を踏みしめながら死に反抗して立上つたのです。愛！愛！何よりも强大な母の愛を武器として……此强烈な母さんの愛のつゞくかぎり「死」そんな不吉なものは夢々可愛い坊のそばなどへ近づけるものでない――あゝ神樣今は何物も死に對しては力を失ひましたしかしたつた一つこゝに殘つたこの母の愛をして一個の命を救はせて下さい。あゝ全能の神樣！（此時程しみ〴〵全能といふ意味を味つたことは曾てない）祈つて祈つて祈りあかしました。あの場合冷靜な三者が居合はせたらあの狂的な母さんの態度はどんなに物凄く見えたことでせう。（これも今から思へば何と云ふ心の轉倒でせう。（もしもあれだけの熱誠を祈りに注ぐのなら――眞實、あれほど人智を超越した全能者の御力をたよる信仰に燃えていたのだつたら何故あの瞬間に「御心のまゝになさせ給へ」と祈る僕べの忍從をすてたのだらう。僣越と云はうか烏滸かましいと云はふか母の愛！母の愛！大きい全能者の愛に比べて母の愛がとれ程深刻なのでせう。――凡べてが御心であるならば――人間の生れることがすでに主

の御心であるとすれば死も又神の司り給ふところではないか。肉體の死！肉體の死！果してそれが私共の尊い生命の最後なのでせうか！烈しい苦戰を續けた母さんの魂も坊の崇高な死の瞬間に今更の如く蘇生させられたのでした。「死の嚴肅さ」到底言葉にも筆にも盡せない餘りに尊い。

激烈なる生との爭鬪を終へて眞の命に入つた崇高な一個の魂！從容として主の御前に進む坊の魂。母さんはかなしいけれども嬉しい。悲壯なる光景よ！恩寵溢るゝ母さんの廿有餘年の短かい生涯に於て何等數へるに足る事も得ないで居るけれど此度の坊の死によつて神樣は母さんにも又人としての大きい仕事の一ッを成就させて下さつた樣に思へます、おそれ戰いてお預かり申した尊い一個の魂を汚さずして又御手渡しする――限りない光榮を感じます。かくして母さんの靈の世界との交渉は眞に生きたものとなつて來ました。地上に於ける七ヶ年の生涯は坊にとつても母さんにとつても實に短いものでした。しかしその短かい生涯で他の人々が四十年五十年かゝつてなす可きことをしつくして行つたようにも思へますよ。そうした意味で母さんも坊の樣な一生を送りたいとさへ思ひますよ。幸福な一生、幸福な子、生れて七年何等浮世の罪惡にも汚れず何等人生の悲哀にも觸れず只日々家人の愛の中に成長して遊び戯れ最後に家人の限りない哀惜のうちに靜かに主の御手にかへつて行つたことを思へば實に實に美しい。亡くなつた憲次さんが或時重おばさんへの手紙の中に若い人の死は薔薇の花の咲き亂れた花園に或夜天使が私かに天下つて馥郁たる花の中から一輪そつと手折つて行く樣だと云つてよこしなすつたけれども坊の死がこれだ。これにちがいありません坊の一生は丁度花園の薔薇の樣に美しく幸福でした。感謝しなければなりません。

心靜かに考へて見れば人はみな母さんが何時破れ樣とも見えぬ幸福に浸つて長夜の夢を貪つて居たと同じ樣に四十年五十年を期してうか〳〵と生活して

居る樣なものゝ明日の日にも地上を去る可き運命であるかもわかりません。たとへ四十年五十年を此世に生息してしまつたからと云つて永遠に肉體に活きられるものではなしおそかれ早かれ必らず到達しなければならない死であるとして見ればたとへ今母さんが可愛いゝ坊に別れてもそれはほんの一時の事であつてやがては母さんも又坊の所に行かねばならぬ運命なのです。生と云ひ死と云ひ無窮に走る時の流れから云へば實に小さい出來事にすぎないのです。肉の世界、形の世界に坊を失つた母さんは無窮無限の世界に坊を見出して此世の愛を彼の世迄延長さすことの不能を信じます。肉體に制限された母さんの方からも依然彼の世の坊の魂を愛し得られるのですものましてや何物にも束縛されぬ自由を持つた坊の魂は時や場所を超越して自由の働きをすることが出來るのでせう。爾うして母さんの胸に躍るあらゆる思ひも坊やの胸に通ふでせう。あゝ坊母さんはいつ迄もいつ迄も坊の前途の發達の爲に祈りませうね。坊の地上に在つた時と同じ樣に。斯うした健氣な決心をして居てもともすれば弱い心の動搖しがちで又しては拂ひかたい憂愁の感に襲はれます。しかし坊、坊は決してそれを母さんが只いたづらに歔欷して居るものとは思はないでせう。母さんを涙を通して上なる光をみ誤まるまいと努力して居ます。坊やの死によつて神樣が母さんにおあたへなさらうとする最も大きいものを見のかすまいと涙に曇る目を見開いて居ます。

とうぞ坊や坊もこの母さんのすべてを守護して冥の道を一直線に迷ふことなく打進んでやがてお召しの時が來たらば雄々しく御前に立派な靈を以て立つ事の出來る樣に母さんの爲に祈つて下さい、もう時計は夜中に近く十一時を二十分すぎて居ます。坊の愛翫した各種の翫具やお伽話しの本はありし日のそのまゝに母さんのわきに置いてあります。可愛いゝ坊が消え去つてこんな遊び道具が何時迄も殘るなんてあたり前の事で居て母さんには不思議で／＼たま

らないやうな氣がします。本も讀んで上げたい、お話しもしてあげたい、一緒におもちやで遊びたい、でも今頃はもう神樣と御一緒にたのしく遊んで居るでせう。ではこれから母さんは休みます、坊も天上でお休みなさい。又明日は早く起きて元氣に樂しく働きませう。では元ちやんお休みなさい。

訃音

廣瀬ヨノ　女子青年會中央委員とし、凡ての青年女子の母君として敬慕せられし同夫人は一月十四日東京にて永眠せらる、御葬儀は廿三日大阪土佐堀青年會館にて擧行されたり、女子青年會よりは弔辭を呈せり。

武田貞子夫人　良妻賢母の型範とし、婦人界の叔母さんと稱されし海軍中將武田秀雄氏の御令閨は一月永眠せらる、同夫人は約二十年間熱心に貴族女子敎育に盡力され、歐米等には御良人と共に渡航されし事もあり、東京婦人界は俄に寂寥を覺ゆ。

加藤咲子夫人　東京女子青年會々員として富士見町敎會の信者なる同夫人は五歳なる愛兒の病を看護しされつゝ一月十三日御永眠なされ、坊ちやんも續き十五日に母君の跡を慕ひて逝かれたり。

燈下の團欒

平岩末子

ララ、ラ、ララ、ラと足拍子を取つて胸に附けた小さき國旗と、遠くに奏づる國歌の調べと相合つた一群は手に手を取つて紅燈輝く廣間に這入る。

ベルジユーム、フランス、イギリス、アメリカ、ロシア、日本。――約五十人の速成各國公使、クリスマスを祝して集たのは志立會長、今西副會長始め役員幹事の面々であるが、日頃見馴れた應接間を遙々招かれた異國の大食堂かのやうにキヨロキヨロ眺める視線は四面の梁と柱とに纒る綠樹の上に、赤き果の上に。

歯切のよい英國生粋の發音もてエルウヰン夫人の食前の感謝が濟むと煙を引いて旨しさうなスープが廻される。手際よく盛られた色彩の氣持のよい菜肉料理の一皿が竝ぶ。和洋菓子が次から次へと渡され

る。コーヒーを以て味覺の享樂が盡きるとテーブルは室外に片付けられて電燈は消された。

暗い室の靜寂を破つて聞ゆるものは赫々として薪の燃ゆる音許り、見ゆるものは焰の閃き許りなる煖爐を中心とした廣間の光景は將に泰西の十九世紀のホームの感じがする。

「きよしこのよる、ひかりてりきぬ……みこはきませり。ねむりたまへる、みこのゑがほのしづけさよ、しづけさよ……」

何と云ふ靜けさか、淸けさか、蓄音機のレコードは廻轉して休まぬ間に人の心は慰められ引立られて感興に滿ちた愛の團欒は無言の談笑を交はす。

相應はしくも此場合、ミスボーサンケットは流暢な日本語をもつて英詩に描き出されたクリスマス物語りを話された。何たる情趣であらう。恍然より靜思の境域に進むだ五十の靈は、河井先生の悲調に始り、希望に輝く歲暮の御感話に至つて緊張せざるを得なかつた。程よき溫室の暖かさに絆されて開いた親睦の花は青年會の存在により現世に光りの國の出現を祈る一致協力の熱の色に燃えた。

御渡印の途すがら丁度今宵の興を共にした米國の青年會幹事の姉妹の御話等をきゝ、大西先生の閉會の御祈を記憶に刻みつゝ、會館の門を後にすれば、甲高き下駄の響、頰は寒風に刺されて、おゝ寒い、と叫むだ刹那、霜夜の園に猶も香る梅花の勳を思つた。

「大正七年十二月十七日の夜の記事」

寂しい、美しいクリスマスの木

吉屋信子

昨年の暮――千駄ヶ谷教會の日曜學校のクリスマスに、私のお伽噺をと言つて下さつたので、お汁粉をひつくり返した樣な代々木あたりのぬかるみを辿つて、小さな小屋の樣な教會堂に入りました、正面の白けた壁に少しばかりの寄生木の枝を飾つて、左手に一本のみすぼらしい松(?)の木が立て、あつて、枝にはパプコンのお菓子が、細い千代紙の切れと、いつしよに四方にさけてあるばかり、これがクリスマス樹と見えて外には長椅子が幾つか並らべてある外、これといふ飾りもない、壁の上に祝クリスマスといふ字が何かで作つてあつた樣です、いたつて質素な沈んだ色彩の堂内でした、けれども長椅子に目白をしに、かしこまつて居る小さい方達のお顔はお祭に出て居る樣に一生懸命に紅い頰をしてゴム毬の樣に、その小い胸がはづんで居るらしいのです。

まづ何よりも其の日の教會のクリスマスのデコレーションは小さい 魂 の持主の此の生きた子供達それ自身でした。

しかし、私は一つ心配なことがありました、それは此の可愛い子供達の樂しんで見るはづの、クリスマスの木の枝に一つの贈物の影さへ見えないことです、あんまり數が多いので外にあるのかとも思ひましたが、ともあれ寂しいクリスマスの木に見えて、小さな硝子窓から見える冬空の鉛色と共に 私 の眼には佗しくうつりました。

プログラムが中程に進んだ頃、獻金の歌聲と共に、少年と少女は立ちました、小さい彼等の手には少年は白い小さい袋、少女は紅い小さい袋を捧げて、あの細いクリスマスの木をめぐりました、木の周圍をまはりながら、手にした小さな袋をその木枝に結びつけるのでした。

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

かくして、歌聲の終りし頃、あの始めみすぼらしいかつたクリスマスの樹には、紅白の小さい花の咲いた樣に小袋が美く綠の葉蔭にゆらいでをりました。小さな堂内に紅白の燈がついた樣で明るい氣持になれました。

一人の敎師が其の紅白の袋の中には、シベリアの哀れな人達のために必要なものを送つてあげるために若干の金錢が入れてあると說明しました。

幼ない方達は圓らな瞳を見張つて、自分達の手で美しく化したクリスマスの木を眺めて居ました。

一心に種々の暗誦や歌や對話をして、そして夕暮の柔らかい風の吹く野路を、一つの贈物も戴かずに元氣よく小さい群は歸つて行きました。

あの田舍の村らしい小さい敎會に集まつた小さな方達！

あなた方は、その日の千九百十八年のクリスマスは少し寂しかつたかも知れない、けれども、やがて大人になつて過ぎし昔の幼なき日に於て、一つの勇敢な美しい行爲を自分達が殘した日を思ひ起して、懷しい人類の愛をお覺えになるならば！

かくあれかしと、私は泪ぐましい氣持になつて、暮れゆく千駄ヶ谷の停車場に立つて、小さな群の影をいつまでも見送りました。

□英國女權擴張者パンクハースト夫人より

大阪每日新聞を通じて日本婦人へ

私は日本の御夫人が近々に英國婦人が今日享受しつゝあるものと同樣の政治上の自由を享受さるゝに至るやう心から希望いたします。同時に皆樣はその政治上の自由を得ました時には私共の國の婦人と同樣に公民としての責任觀念を十分御持ちになるに違ないと存じます。

□東京の人口——世界大都市中第五位にある

横濱商業會議所の調査に依れば、大正六年末の世界大都市の人口は倫敦七百四十一萬九千七百四人、紐育五百六十五萬人、巴里二百九十八萬八千人、シカゴ二百四十九萬八千人、東京二百三十四萬九千人百三十人、ペトログラード二百三十一萬八百三十人、維納二百十五萬人、伯林二百七萬一千人、ヒラデルヒヤ百七十一萬人、フナアイレス百五十九萬七千人、大阪百四十六萬人、廣東百廿五萬人、北京八十五萬人等にて東京は實に世界の第五に位すといふ。

白き贈物

□府下瀧野川町に在る女子聖學院にては十二月廿四日クリスマスの節講壇の傍に一の箱を備へ置き職員も生徒も各々思ひ〳〵の金品を白き布や紙に包み所謂白き贈物として其の箱に入れ西伯利の爲め寄贈することゝ爲したり。

□瀧野川教會日曜學校、婦人會等に於てもクリスマス當日特に西伯利罹災民困窮の有樣を報告して同情に訴へ一同喜で充分の寄附金を爲したる次第なり。

□東洋英和女學校女子青年會の寄附金。每年クリスマスの期節に私共の敎へて居ります日曜學校の爲に本校生徒より寄附金を募ります。昨降誕祭には校長先生のお勸めによつて日曜學校兒童と共に、バレスタイン及びシベリヤの不幸なる子供を少しなりと喜ばせ度いと存じ全校こぞつて、ホワイト クリスマスを致しましたその結果豫想以外の多大の寄附金を得ました。

祈禱主題　東京市部二月

一、東京幹部委員十五名中五名が餘儀なき理由のもとに辭せしため、新委員銓衡に付て當事業發展の爲につくさるゝ適當なる婦人の與へられん事を。

二、新年一月より市部幹事として鈴木みちへ姉を得たるを感謝すると同時に、長く切望せし商館の事務員電話交換手及び市內諸病院看護婦等の爲に良き働の開始せられん事を。

三、去る十二月ブックマン氏講演會には一日平均八十名の敎師等の出席ありたり。ついては此際學生部委員は個人傳道の機を失はざる樣、官公私立女學校に於けるキリスト信徒敎師有志者を集め、此問題と機會とに付て議せんとする集會の計畫の上に祝福を祈られん事を。

四、二月五日より十日まで富士見町敎會主催にて神田美土代町青年會館に於て開かるゝ金森通倫氏の大傳道説敎會に本會よりも多數の青年女子の出

席あらん事を。

五、近時我國に留學せる多くの支那女學生の必要に應じて日本語研究の組を起さんとの計畫の上に神の御指導あらん事を。

六、東京市部委員は近日中に王子町工場主任者と會合せんとす。是に於て本會が計畫しつゝある托兒所及び工女間の働を開始するために要する土地と建築費とに彼等が援助を與へん事を。此事業のために適當なる土地と建物との與へられん事を。

消息の一

○西伯利幹事　舊臘廿八日國井綾子、ミスガンターは浦潮に出帆し河井幹事は敦賀まで見送りたり、一月廿五日坂本もと子、河井道子兩人は浦潮に出發したり、ミスガンターは二月早々歸京の豫定

○坂本もと子氏　横濱市捜眞女學校高等科卒業後東京にて家政學研究中なりし同氏は今回女子青年會西伯利特派幹事として一月廿五日出帆さる

○マシユウ幹事　赤十字社員十數名と共に十二月中オムスクの方面に向ひたるが途中困難多き由にて近頃は音信なし無事を祈る

○坂西志保氏　東京女子青年會の事務員として任務せらる、同氏は捜眞女學校出身なり

○平岩末子氏　女子青年會の職員を辭し目下家庭にて御兩親に奉仕せらる

□西伯利事業寄附に關する報告（十二月以降）

一寄附金總高　金八百六拾九圓貳拾錢五厘

內譯　寄附者數　四拾參名
寄附團體數　貳拾六

右寄附金は西伯利事業の爲のみに用ゆる事とし其中より調度品毛布蒲團等を購求したり

一寄贈品總數　三千餘

內譯　物品寄贈者總數　百二十二名
寄贈團體總數　拾五

衣類（男、女、子供）壹千貳百貳拾五點
毛布　參拾五枚
蒲團　參拾壹枚
布物　三枚
靴　百四拾足
ゲーター　貳拾足
靴下　四百參拾參足
手袋　七拾九
帽子　壹百貳拾八

ショール	七拾五枚
頸巻き	百參拾壹
其他洋服附屬品	貳拾五
爪先掩	百九十六
玩具	數百個
繪本雜誌	數百冊
カード	數百枚
洋紙	四千五百枚
キャラメル	六ダース
紙人形	無數

其他雜貨(タオル、齒磨用品、文房具、石鹸、仁丹、みゝかき、ハンケチ、金入、ピン等)

尚特に避難民子供の爲に某學校よりクリスマス贈物として寄贈されし玩具及文房具も澤山あり。

但し荷造りの際混雜して數を調べおとしたるもの甚だ多し、故に實際には以上の數よりは遙かに多くして、大箱貳十貳個と一番の竹行李四個に滿ちゝ其物品の代價は約一千五百圓と見るは最下額なり。尚夏着又は玩具殘しあるものは来期復活祭頃に送附することゝなし爰に算せず如何にも諸姉方の同情の斯く集りたるを感謝す。



西伯利への寄贈品荷造

東京基督教女子青年會の昨今

加藤高子

去る十二月五日の委員會後尾澤靜子夫人を委員長に高瀬しな子夫人を仕事監督役に御願ひしてシベリヤ行き兒童衣類製作に取り掛りました、先づ第一日本橋の或卸店にと出かけてネル其他材料を買求め後二三名の方々の御手傳で或形に裁ちました。それからハガキ又は電話にて「シベリヤ行きの着物を十日間で仕立て下さい」などゝ云ふ無遠慮な御願を然も年末多端なる際致しましたが奥樣方が、早速御屆け下さい、直ぐ出來ますからと御快諾された方もあれば二三人分ではたりない十人でも廿人分でも致しませうと云ふ御同情に刺戟されて短時間に意外に澤山出來上りました。製作品は全部で子供前掛卅八枚、男兒用パンツ六拾九枚、女兒用ペテコート四拾五枚、男女兒用下着四十五組、兒童着物拾二枚、婦人用シミーヅ拾貳枚總數二百二十一品になりました。皆ガンタ先生等御出發の時御持ち下さいました。

クリスマス祝會の記事は別紙にありますが今年は特に階下大廣間及二階は色濃き杉葉を以て思ふ存分飾る事が出來ました、是は房州に居らるゝ本會員の一人が炭商と云ふ多忙の時間をさきて自ら山に行き監督の勞を取つて良品を寄贈されたと云ふ美談をきゝ、斯る同情者を有する本會の幸福を感謝せずには居られません。

冬休みにはカフマン、パタソン兩姉等は鎌倉より伊豆方面に愉快な旅行をされ、渡邊百合姉は御郷里に、中西姉は御家に、私は田舍の姉宅にて、各自思ひ〳〵の正月をしました。一月七日と云ふに一同元氣に滿ちて打ち集ひ新年初頭の幹事會をなし、諸事運轉の開始をしました。然るに此際いつも事務所にて心を盡し興味を以て何にくれと會の爲活動された平岩末子姉が見えませんでした是は渡米中の父君歸朝され家事多端の爲十二月を以て御引きになりま

したが會に取つては實に殘念な事です。然し同姉の同情と興味はこれで中絶と云ふに非らず他の形に於て一層會を愛せらるゝと云ふ點を信頼して御分れせねばなりません。後任者として神奈川捜眞女學校出身の坂西志保姉が非常な熱心を以て來られましたが頰の赤い同姉がこれより事務所に居りますから御親交を願ひます。同時に東京青年會は市部幹事として日本女子大學英文科出身鈴木ミチヘ姉を與へられました。働き人の增員は會の發展の一でありますが何卒同姉の働きは根底未だ淺きものなれば皆樣の一層の御援助を仰ぎます。

一月九日新年第一東京幹部委員會を開き愈〻王子町に千坪程の地所を購入し事業に必要なる會館設立の件を決議致しました。これよりは幾十回の委員會を重ね又不斷の祈禱の力によつて實現せらるゝの喜を見るのであります故會員一同の御努力を乞ふ次第であります。

一月十四日には學生部委員會は久振り大希望を以て開かれました。市内クリチャン教師等と向上進歩のため親交を計る集會の計畫、又支那留學生の爲日本語の組を開設すること又英語科に委員を置きて該科の缺點を制し、一層有意義のものとせん試等熱心なる相談がありました。

今年は本會に於て靈的方面に一層の覺醒を見たく新年第一の催として一月十九日午後三時より富士見町教會長老熱心なる基督者政治家たる田川大吉郎氏の「祈と光の中に」と云ふ御奬勵を願ひました。集會者は雨天にも係はらず九十名餘でした。

横濱移民部の働の一部

昨年十二月初旬長崎から天洋丸で三十餘名の婦人が渡來するよし、同地のツルーマン氏から通知があつたので、同船の到着を共に婦人を招待して懇親會を開き、幹事より簡單なる日用語や外國に於ける日常の禮儀作法等につき懇篤に説明を與へた後で「神共にゐまして」の讃美歌を唱つて共に心ゆくばかり

の靜かな時を與へられた。いづれも田舍の純な婦人なれば事毎に珍らしく有難き樣に見えた。歌詞や祈の尊さに感泣して居つた婦人もあつた。我等の小さき親切を得たよろこび元氣よく出帆した婦人を見送つた時、當會のみの働の爲め又寫眞結婚にて海外行かるゝこの種の婦人の爲祈らずに居られなかつた。

修養會に横濱から出席したもの、中、殊に共立フエリス搜眞英和の各女學校の代表者と共に、仙臺修養會で河井幹事の御講演の主旨「奉仕」の決心を持續するが爲に、毎月一度當會館に集り、有志の寄附に成れる二十枚ばかりの着物を作り、十一月十六日に淺間町の隣德小學校の木村先生の御案内にて同町の貧民を訪問して前記の着物に足袋シャツなど贈つた。十二月二十四日午後再び同町の貧民窟を訪ひクリスマスの氣分を此等の氣毒な人々に分ちたく着物、玩具、お菓子其他日用品など大包を手にして出かけた。誠に眼もあてられぬむさぐるしい三疊長屋に住む人々小供等によろこび迎へられた時の感謝は、彼等のそれよりも大いなるものであつたと思ふ「受くよりも與ふるは幸なり」尊い御言葉を味ひてし、またの豐かな訪問を祈りつゝ去つた。

一月に入り古いけれど暖い着物が澤山集つたので、一同よろこび働いて居る。愛讀者の中で不用の着物とか布をお持ちの方は何卒この可愛想な子供等の爲め當會に御送り下さい。

消息の二

○鈴木とみへ氏　女子大學英文科卒業後函館遺愛女學校に教鞭を執られたるが今回東京女子青年會市部のため就職せらる

○津田梅子先生　全然靜養さるゝ必要ありて今回聖路加病院に入院せらる面會謝絶、專ら御靜養中

○安孫子よな子氏　同氏を主客として神田女子青年會館にて一月廿四日茶話會を開く

○小林德子氏　今回御主人と共に六ヶ月間日本に歸へられたり、同氏は先年米國桑港女子青年會の幹事役を特志にてつとめ、同地に於て夫君の傳道を捕佐しつゝ活動さるゝ方なり

○日向きん子女史　一月十三日東京靈南坂教會にて小崎牧師の司會の下に林照壽氏と結婚されたり、女史に付ては樣々の批評あれども、彼女の奮鬪的生活に對しては敬意を拂はざるを得ず

○海老名御夫妻　ベルサイユ平和會議に對し基督教界代表者として一月廿八日御出帆

○新渡戸稻造博士　二月末に御渡米、多分歐洲にも行かるゝなるべし、御歸朝は本年の末方にて目下米國の母君を見舞ひ居らるゝ御夫人も其節には御同伴にて歸朝さるべし

○鈴本文治氏　友愛會長として萬國勞働會議に出席のため巴里に出立さる、令妹鈴木　姉は目下宮城女學校の教師にして女子青年會の熱心なる會員なり

○山本邦之助氏　病氣のため西伯利行を延期されたり

○平岩保恒監督　舊臘廿九日約一年間の旅行を無事に終へ歸朝さる

○原田助總長　今回同志社大學總長を辭せらる

落穂集

□臨●●●●時委員會　女子青年會中央委員會は一月十四日夜會館にて開く、出席委員は井深花子、松岡鎭枝、三谷民子、長尾浪子、志立タキ子、クレメント、フイシヤ、フエルプス夫人等八名なり、協議の要點は西伯利事業にして其規模資金調達に付きては河井幹事の浦潮より歸りて後尚一層正確なる計畫をなす事に決せり、一月廿四日午後會館にて安孫子よな子夫人と新幹事ミスペリーミスダニングのため茶話會を開く事。二月以降はミスマシユーもミスフヲンダも赤十字社を辭して女子青年會に復職し、ミスフヲンダーを浦潮女子青年會の主任たらしめんとの議可決す。

□信●●●●徒教員會　東京女子青年會の學生部にては市中主なる女學校の信徒女教師代表者を招き夕食を共にして今後如何にして女學生間に有益なる奉仕をなし得べきやに付き打とけたる懇談會を開けり。

□富●●●●●●士見町教會大擧傳道　二月五日より十日迄東京神田美土代町青年會館内にて金森通倫氏の大傳道說教會を開催さる、主催は東京富士見町教會にして、同教會は此がため準備に怠りなく、委員會、祈禱會等盛にして一會員は四百枚のちらしを二月一日より十日まで毎日四十枚の割にて市内に散し、尚各員は廿名宛の聽講者を伴ひ來る事となれり。此傳道費は金一千五百圓の見積にして是を去る一月十二日の禮拜に於て募集せしに、立どころに千七百圓餘の獻金を得たるは、如何に全會員が、此回の傳道に熱心なるかの一端と見るも可なり。

□ブ●●●●ツクマン氏　一月下旬は大阪にて集會を開かれ其婦人側の集會は同市女子青年會にて催されたり

□女●●●●●子青年會經常費に寄附　フイルライト氏は舊臘東京滯在中女子青年會の經常費として金五百圓を寄附せらる、同夫人は米國女子青年會に深き關係を有せらるにより(て)此回の如き賛助ありたり。

□ア●●●●●ダムス女史　米國紐育市にある女子青年會幹事學校の聖書擔任の同女史は來る四月渡來され支那

印度を訪問さるゝ豫定なり。

□社會研究會　基督教同盟會社會研究部は一月廿二日青年會同盟本部にて開かれ神戸の賀川豊彦氏より委しき下層社會の報告ありたり

□京濱教役者新年會　一月廿三日東京にて京濱間の教役者及び重なる信徒相集り親睦をかね本年度の傳道に關し協議する處ありたり。

□矯風會新計畫　西伯利に於ける醜業婦救濟等は焦眉の問題たれは今回矯風會にては此方面に開拓さるゝ處あるは欣ぶべき事なり、近き中に久布白夫人ミスペンラードは視察の途に上らるべしと。

□京橋教會献堂式　一月十一日京橋區木挽町 京橋教會の献堂式は矢野執事の司會にて、二宮牧師の式辭及献堂祈禱に次ぎ海老名牧師の演説ありたり。

□三　教　調　べ

（萬朝報より轉載）

文部省が去る五年四月から六年二月に亙つて行つた神道、佛教、基督教の現在調査は、此程各事務局、宗務所、教會等へ配布したが、其概要を聞くに

△會が殖えて人の減つた神道　現在神道各派は十三で管長が十二人同事務所取扱が一人ある、祠宇、教會、説教所は六千八百八十で、前年度に比すると百九十四を増し教師男六萬六千百七十九人、女六千七十三人だが是亦男女教師千五百五人を減じ、生徒男女二百二十八に就ても廿一人を減じて居る。

△寺が減つて人が殖えた佛教　佛教各宗派は五十六で、管長五十四人、同事務取扱一人、寺院は七萬千六百九十二で、前年度に比し十ケ寺を減じた、夫れは眞宗で九ケ寺増し、天台、眞言で各七ケ寺、臨濟で四ケ寺、曹洞で一ケ寺減じた結果である、境外佛堂は五十四を減じて三萬六千百九十三、教會説教所は六十を増して王千五百十四住職は四十三人減じて五萬千五百四十一だが、將來住職となるべき教師は三千三百十二人増して現在男六萬八千四百八十五人、尼千四百卅四人、之に次ぐべき無資格僧尼も三千七百四十三人増して僧四萬四千八百三人、尼三千六百九十五人、生徒も七百卅人増して男女

八千八百十八人、各派に消長はあるが佛教全體から見れば確に興隆の機運に向ひつゝある。

△人も教會も共に殖た基督教　天主公教より無所屬に至る基教二十四教會所屬の會堂講義所等の現在數は、千四百三十四で、前年に比し二十三を増し、其所屬宗教宣布者は内國人八千六百二十七人、外國人八百十二人で、即ち前者で三十五人、後者で二十三人を増して居る更に外國人を國別すると米英人各十人、獨逸人三人を増し、其他の國人には増減がない、係くて基督教は順調の増加を來しつゝある。

□佛教新女子大學開設計畫

東京女子大學が基督教主義なるに對し佛教側に於て夙に之に對抗すべき女子高等教育機關の設立を企圖され居りしが來る四月には愈々村上專精博士の東洋高等女學校及び千代田高等女學校共大學開設の運びとなるべく既に募集の基本金も可なりの額に達したる趣なり。

新刊紹介

本田庸一先生遺稿（定價參圓）

高木壬太郎編纂

「永久に葬ること能はざる先生の感化は生きて我らの裏に在り。其偉大なる人格と精神はとこしへに我等を導かんとす」これは、岡田哲藏氏が、親しく教を受けられし恩師本田庸一先生の略傳中に書かれし語であります。今度本書が出版されし爲に、先生の時代にあはざる人々も、いかなる遠隔の地にゐる人々も、本書によつて、先生に接し、その教をきゝ、その感化をうけ、先生に導かるゝの幸を與へらるゝに至つたことは誠に感謝の至りであります。

本書には先生の寫眞、筆蹟が卷頭にあり、尋で一般說教及教訓。特別集會說教及演說。基督教と日本。時の變化及時局。教育及社會事業。傳道、夏期學校及青年會。青年訓。同時代人物觀。雜錄。日本メソヂスト教會の指導。監督公書。旅行記。書簡及日記等の各編に別たれ、七〇八頁の書は、日本に與へられた偉大な一宗教家に生けるが如く物言はしめてをります。各學校の圖書室には無論備へなければならない書ですが、個人としても、老若を問はず、男女を問はず、信徒未信徒を問はず、宗派を問はず、何人にもすゝめたき事です。或人はクリスマスに之を牧師へ贈りました、私は母へ贈りました。基督教女子青年會に御申込になれば同會で取次ぎます。（M、M）

一週一信（定價七十錢）

故廣岡淺子刀自著

本書は刀自の永眠さるゝ一ヶ月前に物せられたのであります。刊頭序文に「單に我身の安心立命を以て足れりとせず、國家社會の罪惡をも其身に擔ふてこれと闘ふに非らざれば眞に十字架を負ふて基督に從ふ者に非らざるを悟り、人を恐れず、天の啓示を仰いで、忌憚なき叫びを擧げたものであります」刀自六十歳にして神を認めてより十年間國を憂ひて老境尚壯者を凌ぐの熱辯をもて諸所に講演されました。刀自の信仰的生涯は本書によく現はされて居ります。青年に對する警言、社會に對する叫び、言々句々肺腑より迸り出てしものであります。本書は國家的女丈夫、憂國婦人の遺稿として讀者に御一讀をお勸め致します。刀自の信仰的生涯の一端は本文に掲載してあります。

友垣

○ 北海道 岡田春子

數年間流血の慘を極めし世界戰爭もいよ〳〵平和の曙光を仰ぎ得らるゝ時と相成深く御祝ひ申上候此際貴會の御働きなさる區域が擴張され御多事ならんと存じ神恩更に豐ならん事を祈申上候大沼公園も昨今は降雪既に七八寸全地を掩ひ湖に氷の固く結び候て小供は日々スケートにて大騷に御座候。

○ 岡山 土井澤江

青年界で西伯利にお働の記事を拜見致しました、青年會では皆樣慰問の爲に大層お働きになりました事嬉しく存じます私も青年會で導かれた一人として何か働き度何か見附け度とあせつたり考へたりしましたがこれと其の仕事も見附けない中に一ケ月たち二ケ月たちました當地の小さい教會の爲にも隨分責任を感じて居りますがつまらぬ私には爲すべき働がございません日用品を女學校の生徒に賣つて其利金を日曜學校に寄附すると云ふその仕事だけを今やつて居ります之は中々うまく行く樣ですからこの分ならば來學年度からは青年會の爲の賣物も始め度と思つて居ります田舍の事とて大きな仕事は及びもつきませんが小さい事に心掛けましたら、少しば産み出す事が出來ると思ひます、生徒には青年會の事業や寄宿舍の樣子につきましては度々話して聞かせますので興味を持つて居るらしうございます。

○ 無名氏

私事は只今歸省中の一學生に候が過ぐる日學校のクリスマスの際先生より西伯利の狀態につきお話承り常に自分の事のみ考へ少しも他の事を思ひやる事なく過し來りし事を恥入り申候何か致し度と存じ候へ共まだ何の力もなく眞にはづか許りにて反つて御面倒と存じ候へども此處に私達兄弟の正月の小遣の金を集め候ひし金五圓お送り申上候間憚りながら何卒何かの御用のはしになりと御用ひ遊ばされ度これが西伯利にて冷かなる水一杯ともなり候はゞ誠に嬉しく此上もなき喜びに候。

○ 横濱 兒玉愛子

當青年會も御祝福の下によきクリスマスを迎へ過ぐる聖日には十名の受洗者を見るに至りました感謝の至りでございます。

○ 紐育 星野愛子

私もおかげ樣で大變元氣で幸福に一生懸命に勉强して居ります何でもが面白くつてしたい事が多く、時が少なくそれだけが苦うございます。感謝祭のお休には貴府の友人の處へ行つて參りましたミセスモリスのお宅へも一寸伺ひましたら大層お元氣でした知人中流行性感冒で死ぬ人が多くあります日本でも同じ病氣が流行致して居ります由くれ〴〵御自愛遊ばす樣願ひます。

○ 岡山 山根妙子

毎度女子青年界を通して諸先生方の御消息を承り蔭ながら御祝福を祈り居り候私事學校卒業後足かけ七年に相成り月日の經るのに驚

かれ候世の中の事は年を加へる度毎に亀の甲より年の効とか少しづゝにても解る様に相成候が反對に主につける心は年毎に解ぬら様な心地致し自ら省みて恐れ戰き申候。此一月四日の夜に候ひき次の夢を夢み申候これ必ず先生を初め信仰の友がお祈り下さる爲と深く感謝致し候。

學校の修學旅行らしき樣子にて三人ばかりの友と校門を出て候他の友は皆雨傘を用意致し居られ候私のみは手ぶらにて笑ひつゝ話しつゝ進み申候に急に天氣變り大雨となり申候すれば如何にせんとて私は大急ぎにて校門迄立ち歸へり候て一人の親切なる友傘を手にして待たれ候へば大喜びにて其傘を頂き前の途に歸へり候雨は益々大粒となり風いいすく狂ひ申候其中に暴風雨は火の雨焔となり足下に燃ゆる木倒れ火の粉は私の身體にふりかゝり最早一歩も前に進まれず胸はどきどき致し何とも形容の出來ざる苦を甜め申候ふと前方を見渡せば高き階段の上に祭壇御座候何處ともなく一主よ御許に近づかん」の讃美歌聞え申候私はこれに力づきて私も一生懸命に聲の限り「主よ御許に近づかん」と歌ひ候ひしに火の雨の中にても心平和になり散りくる火の粉を物ともせず眞直に祭壇にと走り申候私の階段を上り行く時始の三人の友は最早歌唱ひ、、下りられ候其額は英學塾時代と共に信仰の道に入りし人々に候ひき夢さめし後も胸がどきどき致し暫らくは眠られず靜に省みて神樣の深き御恵を味ひ申候あゝ神樣は如何なる試錬を與へ給ふ可きか悦び勇みて「歌うたひつゝシオンに近づく」が如き信仰を與へ給へと思はず祈り申候。

二伸主人事お蔭さまにて佛國より近々歸國する事と相成先に恐ろしき潜航艇の難をのがれ感謝致し候と共に主の御前にひれ伏す日近づく事を祈り居り候。

廣島女學校青年會

○

平和の新春を迎へ神の御恵のいや御會の上に豐かなる事を目出度存じ候さて先生より御企のシベリヤ避難民チエック病兵の爲並びに出征兵士の爲めに寄附金御募りの件當會にても年の改まると共に一段奮發致し努力していさゝかなりとも貢獻致し度存じ候就ては會員は云ふに及ばず在校生卒業生並びに廣く一般市民の御同情を仰ぎ度存じ市内二三の新聞者の御後援に預る豫定に御座候それ故幸皆様の御同情を得て成功し申さば早速御送り申上候。而して今回少し許り集り居り候へば近々鐵道便にて御送り申上げ候寄附金は後より御送り申す可く候。何卒神の御境の現はれん事を御祈り下され度候。

近世偉人物語

野邊地天馬氏著　定價壹圓五拾錢

「凡ての偉人はその若き日に偉人の傳記に親しんだ」とは本書のはしがきである、青少年をもてる母姉にこの書をすゝむ、贈物としても無意味ではない。

「女子青年界」定價及廣告料

定價	内地	海外
一部	金十錢	金拾三錢
一年前金	壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年一月廿八日印刷納本
大正八年二月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會
電話本局五九八〇
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　河井道子
神田區北神保町十四番地

印刷人　前川吉次郎
芝區田村町七番地

印刷所　三成社

Miss Martha Whealdon, who was on her way back to India, each gave short talks. The decorations were largely of a patriotic order with quantities of Allied' flags and greens, and each person wore a a flag of one of the Allied' countries, and took her place at the table of her adopted country as the National Anthem of that country was played on the piano. There were about forty present.

On Saturday the twenty third the general meeting for all association members was held, and Mr. Suga, who has recently returned with the Y.M.C.A. party from France, gave an address on some of his experiences abroad.

The evening of the same day a Christmas meeting was arranged for girls from different offices, hospitals and banks, who could not come in the afternoon. After a short talk by Miss Kawai, the entertainment was in the hands of the girls of the Kanda dormitory, and of the English and gymnasium classes, who gave a play called "The Bell of Service," an English dialogue, and a flag drill. Refreshments were served at the close.

Including the afternoon and evening meetings there were between five and six hundred girls present.

KOBE ASSOCIATION

There is a prospect of securing Office Rooms for the Association near the center of the City.

Special interest is centering in the Educational Department in Kobe. There are three groups which are taking up the study of English. A Chorus Class is also to be formed.

The Physical Department is encouraging out door exercise. Walking trips are being planned for special groups of girls and women. They expect to climb the beautiful hills which surround Kobe City. This department is very ambitious to open a Public Lecture Course on Health, and the first lecture which will be on Tuberculosis will be given by Dr. Kinoshita.

OSAKA ASSOCIATION

Miss Yamamoto and Miss Hard were in the Association over New Years, and enjoyed the visits of these who came to call and to play karuta cards. The Sunday School children almost took up their abode in the living room during the first two days, finding due appreciation of their new clothes and calling cards, and probably making their mothers duly appreciate the Association!

Just before Christmas quite a load of rag dills, mittens, comfort bags and various toys and garments was sent to Siberia via the Osaka Branch of the Red Cross. Girls in the government schools as well as those in the Association had helped in the making and collecting. The mission school Associations also sent their quota.

The arrangements for the women's groups for the Buchman meetings were in the hands of a committee composed of representatives from the Christian Workers Association, the W.C.T.U., and the Y.M.C.A. The meetings were held at the Association and consisted of three talks each, one for pastors wives and evangelistic workers, for women of leisure, two late afternoon sessions, one for teachers and one for students, and an evening series for these unable to come during the day.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XVI January 1919 Number 2

It is reported that Miss Matthew, accompanied by several American Red Cross helpers left Vladivostock for Omsk early in December. Miss Gunter and Miss Kunii left for Vladivostock on December 28th. They are looking for suitable rooms for an Association Center, and are makin preparations for regular Association work there. They took with them big boxes, containing warm clothing for refugees. The appeal for help for Siberian Refugees which went out from the Association Office met with generous response, and we were able to fill twenty-five big boxes. (The picture in this issue of the Magazine shows the packing of these boxes in the gymnasium of the Tokyo Association) In addition to this, Yen 800.00 came in small amounts from Japanese and foreign friends. Miss Kawai left for Vladivostock on January 25th, taking with her Miss Tomo Sakamoto, who is a graduate of Shoshin Girls' School, (Baptist) Yokohama.

On the evening of January 14th, a special meeting of the National Committee was held at the Tokyo Building. There were present, eight members, two secretaries and three guests. The discussion was regarding our Siberian work. The regular plan of the work and the budget will be made up after Miss Kawai's return in February. The Committee decided to give a reception on January 24th to Mrs. Abiko, the prominent member of the Japanese Y. W. C. A. in San Francisco, and Miss Hazel Verry and Miss Elizabeth Dunning. Mrs Abiko is a sister of Miss Tsuda, and her home in San Francisco is open to every Association friend who lands there. The Committee is looking forward to the return of Miss Matthew and Miss Fonda whose six months leave of absence for Red Cross work in Siberia, close on March 1st. The Association is greatly hampered at this moment by the lack of a sufficent number of secretaries.

Mrs. H. M. Wheelwright of Portland, Oregon, who was en route to India stopped in Japan in December. She is a member of the Board of Directors of the Portland Y. W. C. A. Her interest in the interest in the Associations in Japan was expressed by a gift of Yen 500.00. This was most gratefully received and has been a decided help to the Associations at Kobe, Kyoto and Yokohama where it was sent.

Madame Asa Hirooka passed away at her Tokyo residence on the night of January 14th, after an illness of two weeks with influenza. She had been a member of the National Committee for years, and was President of the Osaka City Association. Her death is a great loss not only to our Association but to the whole of Japan, and in a particular sense to the Japanese Christian world.

TOKYO ASSOCIATION

The first of the Christmas meetings of the association was held December the eighteenth, when all the members of committees, teachers and secretaries met and had supper together, followed by a short informal meeting. Miss Boxanquet told in Japanese the story of "The Toiling of Felix" by Van Dyke, and Mrs. Shidachi, Miss Kawai, and

女子青年界第拾六卷第二號（每月一回一日發行）
大正八年一月二十八日印刷納本　大正八年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

